

Seishin Campus

227



おもな記事

- ・第72回卒業式学長式辞(要旨)
- ・ご退職の先生ご挨拶
- ・グローバル教育環境整備募金のお礼とご報告
- ・短期留学〈オンライン〉報告
- ・キャリア支援について
- ・高大連携ワークショップ
- ・人間関係学科研究成果発表
- ・学生の活躍
- ・受賞報告
- ・BE*hive展示 リニューアル

令和3年度

第72回 卒業式 式辞(要旨)



「希望のある未来」を切り拓く

聖心女子大学
学長 高祖敏明
KOSO Toshiaki

卒業生の皆様、おめでとうございます。保護者の皆様にもお慶びを申し上げますとともに、これまで賜りましたご支援とご協力に心より御礼を申し上げます。

コロナ感染拡大を予防するため、式場参加も各学科代表と学長賞受賞者に限るなど規模を縮小しており、一人ひとりに卒業証書をお渡しできない点、申し訳ないのですが、ご理解をお願いします。

「千の風になって」の新井満さんに、よく知られた祈りを自由訳した「神様のシンフォニー」という作品があります。「神様、お願いがあります。どうか、この私を楽器にしてください。一つの小さな楽器となって、力を合わせて奏でさせてください。すべてのいのちに愛と平和が訪れますように」と祈ります。

そのために「慰めてもらうより慰める人に、理解されることよりも理解する人に、愛される人よりも愛する人に、神様、どうぞ私を導いてください」と続きます。これは皆さんへの私たちからの贈る言葉であり祈りでもあります。

卒業証書は大事な人生のパスポートです。それを祝しつつ、もう一つのパスポートをプレゼントします。それは、マリア様のメダイと「感ずべき御母」と呼ばれる絵のカードで、希望のある未来を示すあけぼのを背景に、若き聖母マリアの姿が描かれています。

聖心会は世界約30か国に150余の学校を展開しており、この絵は世界中の聖心ファミリーをつなぐ出会いのパスポートです。また、あけぼのは、まさに社会へと巣立つ皆さんの今を示しており、この絵は希望のある未来へのパスポートです。

国連のグテーレス事務総長は、「パンデミックが教えてくれたように、私たちは一蓮托生だ」と語り、「不公平で不平等なワクチンの提供、貧困層に不利な世界の経済システム、気候危機に対する全く不十分な対応」等を挙げて、「誰かを取り残すとき、我々は全員を取り残す危険を冒している」と警鐘を鳴らしています。同時に、「朗報は、我々がこの地球規模の課題に対してできることがある」ことで、「人類が引き起こした問題は、人類によって解決できる」と希望を述べています(朝日新聞朝刊、2月18日付)。

世界の未来は若い皆さんに委ねられています。そこでは、「慰めてもらうより慰める人、理解されることよりも理解する人、愛される人よりも愛する人」が求められますし、「すべてのいのちに愛と平和が訪れますように」との祈りは行動へと駆り立てます。皆さんのこれからの日々が、三つのパスポートに導かれて「希望のある未来」を切り拓く歩みでありますよう祈念しています。



ご退職の先生



人間関係学科
大橋 正明教授
OHASHI Masaaki



国際交流学科
小川 早百合教授
OGAWA Sayuri

私が聖心に初めて出会ったのは、39年前の1983年です。80年前後のインドシナ難民の大量流出で、日本では難民支援のNGOが相次いで設立され、その一つが聖心のシスターたちによって支えられていました。そのためNGOが集まってのバザーが聖心のキャンパスで開催され、その一角で私はシャブラニールの事務局長として、バングラデシュの女性たちが製作した手工芸品を販売しました。

それから31年後の2014年、私は本学に赴任しました。初めの2年間、私は大学では穏やかに過す一方、学外で様々なNGOやNPOに熱心に関わりました。

ところが3年目から急に雲行きが変わり、それからの5年間、特に最初の2年間は疾風怒濤の日々を過ごしました。今の4号館を本学が購入し、そこに研究所を開設することになり、その責任者が私が仰せつかったからです。

岡崎前学長から何度もご助言を頂きながら、4号館の1～2階のスペースの確保と設計、研究所と展示スペースの名称選定、運営委員会の設立、活動内容の検討と決定、展示テーマの選定と慣れない展示のための準備、予算折衝、事務体制の確認、オープニングイベントの企画と実施などなど、文字通りてんてこ舞いの日々でした。

研究所ができる前とは逆で、私はグローバル共生研究所の公開イベントやBE*hiveでの展示コンテンツ作りのために、学内にNGOやNPOを呼び込んで、一緒に活動を展開した気がしています。

還暦の年に転職してきたこの老人を、8年間温かく受け入れて頂いた聖心女子大学のすべての皆様に、定年退職を目前に厚く御礼申し上げます。

私が学生の頃、聖心女子大学は、すべての授業を英語だけで受けて卒業できる国際性の高い大学として知られていました。帰国子女入試もすでに実施され、レベル別日本語授業があり、それを担われていたのはシスター・荘田でした。

卒業後、国際基督教大学（ICU）大学院に進み、そこでTA・非常勤として、日本語教育にかかわり、1984年にICUの日本語教育記念行事が行われた際、偶然シスター・荘田が来場してくださって再会し、私が日本語教育に携わっていることをとても喜んで下さいました。それがご縁で、聖心での非常勤を数年させて頂きましたが、病気で続けられなくなり、シスター・荘田も定年になられました。

その後、聖心で留学生を定員化したため、日本語教育の専任教員が必要ということで、改めて声をかけていただき、1995年に着任しました。着任当初は、NHK日本語講座番組制作に忙殺されてしまいましたが、ゼミも担当するように言われ、学外での仕事の余裕もなく、私も学生として恩恵を受けた少人数教育を今度は、提供する立場になりました。

2000年代に入り、当時の学長シスター・山縣の発案で、海外の大学で日本語を教える卒業生達に依頼し、聖心で短期間留学生生活を希望する学生を募ってもらいました。ほぼ同時にヴェネツィア大学から、日本語専攻学生の半年留学受け入れを依頼されました。そこから更に少しずつ拡大、制度も整い、アジア、ヨーロッパ、南米などから留学生がきてくれるようになりました。これは聖心の学生たちにも大きな刺激となったようです。コロナ禍になってからは、短期留学も中止されましたが、再び、多様な国の学生が行きかう国際的なキャンパスを取り戻すことを願っています。



聖心女子大学同窓会

宮代会

日本国内の6つの聖心姉妹校の7同窓会と共に日本聖心同窓会（JASH）を形成し、世界に広がる37ヶ国の聖心姉妹校の同窓会と共に世界聖心同窓会（AMASC）として結ばれています。

宮代日より

新卒業生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。1951年に発足した宮代会は、3月皆さまを第72回生としてお迎えいたします。

宮代会は、終身会費を納入してご入会いただいた聖心女子大学同窓会です。現在約2万9千人の会員を抱え、国内の姉妹校、7同窓会と共に日本聖心同窓会（JASH）のメンバーです。国内には13支部、海外にも5支部あり、世界聖心同窓会（AMASC）の一員として海外にも繋がっています。

宮代会は「会員の親睦」「母校への協力」「社会貢献」を三つの柱として、宮代会館を拠点として活動しております。

会館は、各OG会を通じて世代を超えた親睦の場としてご利用いただいております。

母校への協力としては在学生対象のいくつかの奨学金を給付するほか、聖心女子大学USH基金をはじめ必要に応じて寄付させていただいております。社会貢献としては、会員から寄せられた古着や古切手の整理運用、点訳、拡大写本・製本、縫製などの奉仕活動を行っています。

これらの活動報告やお知らせ、会については、ウェブサイトと毎年1月発行の同窓会誌「宮代」の紙面に記載しておりますのでご覧ください。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

宮代会ホームページ<https://miyashiro-kai.com/>



グローバル教育環境整備募金のお礼とご報告

2017年1月より募集を開始いたしました「聖心女子大学グローバル教育環境整備募金」は、2021年12月に募集期間の満了を迎え募集活動を終了いたしました。
皆様からの心温まるご厚志により、総額308,904,425円のご寄付を賜ることができました。あらためて「聖心女子大学グローバル教育環境整備募金」へのご協力に厚く御礼申し上げます。

募金委員長挨拶

5年前に「グローバル教育環境整備募金」の委員長という大役を仰せつかり、多くの皆様のご協力を頂き、このたび募金活動期間を終了することに安堵する一方、私自身、委員長として十分な活動ができたかどうか確信が持てておりません。新型コロナウイルスの影響もあり、大学も募金活動のための企業回りが厳しくなり相当苦労されたと思います。

そのような厳しい環境のもと、卒業生・在学生とそのご家族を中心とする個人の皆様からの幅広いご寄付と宮代会、聖心会をはじめ各種団体・企業の皆様など多くの方々からご厚志をいただきました。さらには、教職員の皆様にも多くのご寄付をいただくことが出来ました。ご支援をくださいました皆様に、深く感謝申し上げます。

募金委員を引き受けてくださった方々には、ご寄付はもちろんのこと、知人や協力していただけた方々の紹介やお願いまでもしていただきました。本当に有難うございました。当初目標額として定めた金額には遠く及びませんでしたが、多くの皆様から寄せられた思いは、これからの聖心女子大学の発展につながるものと確信しています。

これからも聖心女子大学で学ぶ学生が、世界の課題と向き合い行動するグローバルマインドが育つキャンパスで人生の貴重な学生生活の時間を楽しく過ごされることを願っています。

皆様には引き続き、聖心女子大学の更なる発展のために、これまで以上に暖かいご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

グローバル教育環境整備募金委員会
委員長

濱口 敏行



グローバル教育環境整備募金の実績 (2021年12月末日)

寄付者区分	件数	金額
個人・団体	937	168,498,425
法人	61	140,406,000
合計	998	308,904,425

学長挨拶

聖心女子大学は1948年4月、日本最初の新制女子大学の一つとして誕生して以来、「真の教養人」を育てる「リベラル・アーツ教育」を環境の変化に合わせてつ貫いてきました。学生たちの自主的・創造的な「学ぶ意欲」に応え、グローバルでアクティブな「行動する知性」を育てています。

その大きな特色は、幾多の先人たちが各分野で活躍する卒業生など、さまざまな人びとの強い思いと支援が、本学を今日の姿へと導いてきたことです。その思いを受け継ぎ、本学がキャンパス整備の一環として立ち上げたのが「グローバル教育環境整備募金」でした。

卒業生・在学生とそのご家族を中心とする個人の皆様からの幅広い寄付と同窓会組織である宮代会をはじめ各種団体・企業の皆様から多くのご厚志を賜りました。ご支援くださいました皆様に、あらためて深く感謝申し上げます。

聖心女子大学は「現代教養学部」という学部名を掲げ、これまでの歴史と伝統を大切にしつつ、コロナ時代の挑戦やSociety5.0への道程を視野に入れながら、新たなカリキュラム・新たなプログラムをスタートさせています。

2023年（令和5年）に本学は創立75周年を迎えます。

現在、実施運営委員会を立ち上げて、75周年に向けた各種企画の準備を、学生たちからの声も採り入れながら進めているところでございます。

私ども教職員は、本学の更なる発展のために、これからも精一杯力を尽くしていく所存ですので、皆様にも引き続き暖かいご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

聖心女子大学
学長

高祖 敏明

2021年11月～2021年12月 寄付者 ご芳名

- | | |
|------------|------------|
| ■ 500,000円 | ■ 200,000円 |
| 園田 明子 | ラウリア 佳子 |
| ■ 100,000円 | ■ 30,000円 |
| 山内 昌子 | 鈴木 聖子 |
| ■ 30,000円 | ■ 30,000円 |
| 五藤 和子 | 矢沢 圭子 |
| ■ ご芳名のみ | |
| 園田 八重子 | 坂口 美保 |
| 高祖 敏明 | 関 昭裕 |
| 五弓 紘 | |
| ■ 匿名 7件 | |

短期留学〈オンライン〉 報告

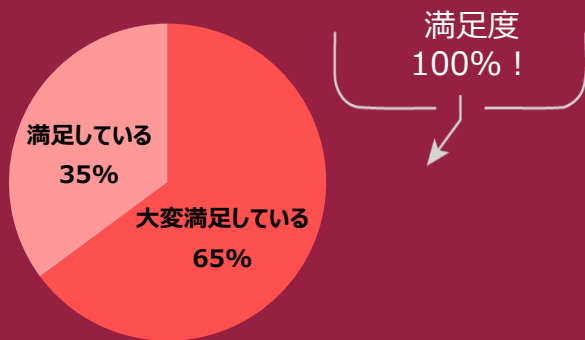
短期留学とは

語学力の向上をメインに、海外の文化・生活を体験することを目的とした留学制度です。

1年生～4年生、どの学科の学生も参加できます。全てのプログラムには事前のクラス分けテストが含まれるため、自分の語学力にあうレベルで学修を行うことができます。

2021年度はコロナ禍での試みとしてオンライン語学プログラムにより開講。研修校の提供するプログラムはオンラインの特性を生かした、従来の派遣型同様の充実した内容です。

短期留学〈オンライン〉の プログラム全体への満足度は？



交流会の様子(21年度参加学生提供)

合計
37名が
参加しました

2021年度夏期短期留学〈オンライン〉 参加者の動機は？(複数回答可)

語学学習	97%
異文化交流	78%
単位取得	59%
プログラム内容に興味があった	54%
派遣型に参加したかったが開催されない	43%
オンライン型に参加したいと思った	19%

参加学生の声

カルフォルニア大学デイビス校
(アメリカ・英語)

ソウル女子大学
(韓国・コリア語)

参加する前は「オンラインってどうなのかな」や「たった一ヶ月だし」「もう3年生だし」と考えていました。ですが、オンラインだからこそ現地学生と積極的に連絡をとり、短期間だからこそ集中して取り組むことができました。

(英文3年 A.M)

対話しながらの授業で学生の発言の機会が多く、発音やスピーキングの練習になりました。ソウル女子大学に通う韓国人の子とペアになり、3週間で20時間以上交流し、とても仲良くなりました。

(基礎課程1年 S.Y)

キャリア支援



新2・3年生支援

学科別「先輩の話をきこう」イベントの開催

本イベントは、卒業直前の先輩から「進路決定、学科での学び、課外活動」などの学生生活の体験談を聴き、新2・3年生が自らの将来を考えることを目的として企画されたものです。8学科計16名の先輩の協力のもと、3月卒業式前後の3日間にわたり、本学のキャリアカウンセラーがファシリテーターとなってオンライン(ZOOM)で行いました。在学生は思い思いの場所からイベントに参加し、これからの大学生活を充実させるためのヒントを得ていました。

キャリアセンターは、4年間を通じて、学生が自ら未来を切り拓いていくための支援を行っています。

新4年生支援

就職活動支援イベントの開催

業界研究
セミナー

模 擬 面 接

グループ
ディスカッション
実践講座

3月1日が就職活動における「広報活動」の解禁日と言われつつも、一部の企業では採用選考が始まっています。昨年に引き続き、業界研究セミナー、模擬面接・グループディスカッション実践講座がオンラインで開催され、2022年1～3月までの学生申し込みはのべ1,000名を超えました。コロナ禍において採用選考もオンライン化が進んでいますが、学生が着実に準備を進めている様子が窺えます。

高大連携

高大連携で行ったワークショップの研究成果をパネル展示

聖心女子大学4号館／聖心グローバルプラザ内のBE*hiveで、高大連携ワークショップの研究成果のパネル展示が行われています。

これは、本学と国内5校の高校の生徒で「ジェンダー」をテーマに開催したワークショップを行った研究結果を発表するものです。

ワークショップは2日間にわたって行われ、初日には、本学教員によるワークショップや本学課外活動団体「はなはなSDGs」が日本のジェンダー問題について問題提起を行い、生徒たちとディスカッションを行いました。2日目は、第二東京弁護士会による模擬立法授業、国際NGOプラン・インターナショナル・ジャパンによる「開発途上国のジェンダー問題」についての講演が行われ、生徒それぞれが「ジェンダー」を自身の問題として理解と考察を深める2日間となりました。



BE*hiveで展示中のパネル

「高校生が取り組むジェンダー問題」の展示パネルは、本学教員などとの研修会に参加した後、グローバル共生研究所と高校生たちと連携して制作したものです。

夏のワークショップの様子



グローバル共生研究所副所長
石井 洋子

研究成果発表

人間関係学科にて卒業論文と社会調査実習の成果発表会を開催

研究成果を磨き合う「卒論発表会・実習報告会」が2022年1月21日に行われました。本会は、4年次生と3年次生全員が、社会調査に基づいた研究の内容を発表し、教員や学生と質疑応答を行う人間関係学科最大のイベントです。

本年度は、特設WEBサイトを用いたオンライン発表会の形式で実施しました。4年次生は発表動画とポスターを事前配信した上でリアルタイムで口頭発表を行い、リーダーの教員や卒論執筆を控える3年次生から沢山の質問を受けていました。3年次生もまた、社会調査実習の研究発表の場として発表動画を用意し、人間関係学科へ進級した2年次生などと意見交換を行いました。

例年、このイベントは、4号館3階のブリット記念ホールで行われ、オンラインを用いた発表会は昨年に引きつづき2回目ですが、とても集中した学生たちの顔は頼もしいものでした。



課外活動団体「Earth in Mind」 気候変動アクション環境大臣表彰でユース・ アワード受賞



「Earth in Mind」は、「持続可能性（サステナビリティ）」や「エシカル」をキーワードに、校内イベントへの参加や学外学習を通して現代の社会課題への理解を深めている団体です。

「Earth in Mind」の受賞は学生食堂のフードロス削減、フードロス問題に焦点を当てた学生提案型授業の企画、フードパントリーの実施など、フードロスゼロ大学を目指す取り組みが評価されたものです。

■学生のコメント

さまざまな方にご協力いただきながら達成したフードロス削減の結果が、このような受賞につながったことを大変嬉しく思います。環境問題の視点から始まったプロジェクトでしたが、活動の過程では食への倫理観について考える時間を多く持ちました。この受賞を励みに、日本初フードロスゼロ大学の実現に向けて、今後もさまざまなアプローチから活動をしていきたいと思います。

食品ロス削減のための 「クリスマス・フードパントリー」 を実施

昨年12月、本学では食品ロス削減のための「クリスマス・フードパントリー」を実施しました。これは学生団体の発案を受け実施したもので、学内で集まった食料品と、本学と「シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー(S-SAP)協定」を結ぶ渋谷区からの呼びかけに応じたポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社から寄贈された飲料300本をボランティア施設に送付しました。送付した支援物資は、子育て応援や生活困窮者支援のために活用されました。



創立75周年記念 特設Instagramを開設しました

2023年に迎える本学の創立75周年記念事業の一環として、学生会役員会を中心に在学生が運営する特設Instagramを開設しました。

今後、学生による様々な取り組みを紹介しますので、フォローをお願いいたします。

なお、大学公式 創立75周年記念特設サイトは、4月上旬の開設に向けて準備中です。



<https://www.instagram.com/ush75th/>



災害復興支援



本学が行っている災害復興支援について のパネル展示が始まりました



本学のアーカイブ展示を行っているクニハウス(※)で、新たに本学の災害復興支援についてのパネルが追加展示されています。

本学では東日本大震災の翌年から、ほぼ毎月、学生と教職員の復興支援チームを陸前高田市に派遣。2017年までの派遣回数は60回、のべ322名の学生が参加しています。また、支援活動は2018年から場所を福島南相馬市に移し、コロナ禍の現在もオンラインを活用して継続中です。

(※旧久遠宮邸の御常御殿の玄関部分)

受賞報告

令和3年度聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞と聖心女子大学学長賞の受賞団体について

聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞

聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞は、建学の精神をよく体現し、模範となる学生生活を送ったと認められる卒業見込みの学部学生を褒賞するもので、表彰式は卒業式で執り行われます。



英語英文学科

(現・英語文化コミュニケーション学科)

加藤 直

KATO Nao



哲学科

福井 美夏汀

FUKUI Minami



教育学科

品田 真優

SHINADA Mayu

聖心女子大学学長賞

聖心女子大学学長賞は、学術研究活動、課外活動、社会活動等で特に顕著な成果を挙げた学生または学生団体を褒賞するもので、令和3年度の受賞は、以下の団体です。



Earth in Mind



BE*hive

(展示+ワークショップ)

5月12日(木)

BE*hive展示が新しくなります。

第Ⅲ期

WEB展示
公開中

「いま、『女性』は どう生きるか」

美か束縛か 一纏足・コルセットの 歴史と #KuToo運動一

9世紀の中国やイギリスにおいては、長く続いてきた纏足やコルセットによる締め付けへの問題意識が生まれました。今見れば束縛に見える極端に小さな足や細いウエストは、それまでの社会においては、美と「女性らしさ」の象徴でした。

#KuToo運動のような、「女性らしさ」の象徴をめぐる現代社会の動向についても考えてみましょう。



纏足の靴



本展示は、WEB展示
からもご覧いただけます。

展示

「緒方貞子さんと聖心の教育」 リニューアル

本展示が2年目となる本年5月には、以下が加わります。

01

ルワンダからの声

「国際シンポジウム～緒方貞子さんの思いを受け継ぐ～」(2021年6月実施)の一部を放映。ルワンダ紛争後社会の安定を目指した緒方さんは、女性たちを支援し、和解と平和の構築の道を開きました。それから4半世紀、ルワンダの現状を聴きます。

02

<マザーブリットの漫画パネル、 および写真集>の新展示



学生と談笑するマザーブリット
(1960年頃)

開催期間

2022年5月12日(木)
～2023年4月27日(木)

会場

聖心女子大学4号館
グローバル共生研究所 BE*hive

開館時間

月～土
10時～17時(日・祝日 休館)

このたび、『難民に希望の光を 真の国際人緒方貞子の生き方』(中村恵著・平凡社)が出版されました。著者は、緒方さんの私設秘書であり、難民支援学生団体SHRETの設立時にもお世話になりました。この出版にあたり、グローバル共生研究所は、「緒方貞子さんと聖心の教育」展示のために収集した資料・情報を提供させていただきました。

一般の方ももちろん、卒業生・在学生の皆様もぜひご参加ください。グローバル共生研究所では、公開講座・共生セミナーを開催しています。詳しいご案内は、グローバル共生研究所WEBサイトからご確認ください。※宮代会協力会賛助会員割引もございます。

聖心女子大学
グローバル共生研究所
Sacred Heart Institute for Sustainable Futures (SHISF)

